

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習は、十分な定着が見られた。
- ・話題の中心を捉え、メモをしながら聞くことができる児童が多い。
- ・物語文では登場人物の心情を、説明文では要旨を読み取る力が定着している児童が多い。

(2) 課題

- ・自分の考えを明確にして、内容のまとまりを考えて段落の構成をすることに難しさを感じる児童が多い。
- ・課題に対して、自分の意見をもったり、それを相手に伝えられるように文章で表現したりすることができる児童が少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	読むことや話す・聞くこと、言語文化については目標値である。しかしそれ以外は目標値を下回り、特に、言葉の特徴や使い方、書くことは大きく下回っている。		
第5学年	全体の正答率は、目標値を3.4ポイント上回った。しかし、書く領域は、下回っている。	全体の正答率は、目標値を0.5ポイント上回った。書く領域は目標値を下回り、文章を書くことができていない。	
第6学年	全体の正答率は、目標値に達している。しかし、書くことや情報の扱い方については、目標値を下回っている。	全体の正答率は、目標値を2.5ポイント上回った。書く領域は、課題が見られる。特に文章を書くことについては、目標値を大きく下回る。	正答率は、目標値を7.1ポイント上回った。書く領域は全項目で目標値を下回り、特に自分の考えを、事例をあげながら説明する文を書くことができていない。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習が定着していない。また、2段落で構成された文章を書くことに課題がある。	物語文や説明文の内容の読み取りの力は身に付いている。しかし、文章の中から中心となる語を見つけたり、それを使って要約したりすることには課題がある。	自分の考えとそれを支える事例を書く問題の正答率が低い。課題に対して、主体的に考え、自分の意見をもつことが苦手な児童が多いと考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習が、身に付いている。一方で、段落のまとまりを意識して書いたり、文章構成を捉えたりす	物語文や説明文の内容の読み取りはできる。しかし、資料から読み取った事実をまとめたり、自分の意見とその理由を明確にし	自分の思いや考えを表現する問題は正答率が低くなっている。記述で答える問題の正答率が低く、難しいと諦める傾向がうかが

ることに課題がある。	て書き表したりすることには課題がある。	える。
------------	---------------------	-----

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 語彙を習得させるために、読書の時間を確保し、身近なことを表す語彙の量を増やす。 授業中の音読に続けて取り組み、一人一人が音読できているか確認する。 主語と述語を対応させるために一文を短く書く指導を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で感じたことや考えたことを明確にし、順序だてて話せるように、事柄の中心を明確にできるようにする。 文章を書く力を向上させるため、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えられるようにする。 自分が書いた文章を読み直す時間を設定し、推敲する習慣が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> すすんで読書を行う児童を増やし、学習の中で獲得した語彙を生かすことができるようにする。 様々なジャンルの本を手取るよう、声をかけていく。本の紹介や読み聞かせを行って読書に興味をもてるようにする。 読むことに苦手意識のある児童に対しては、挿絵を手掛かりにしながらい文を読み、内容を楽しめるように支援する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係を確認し、主語と述語が照応した文章を書くことができるようにする。 授業感想など、短文を書く機会を多く設定し、書く経験を積む。 辞書を使って意味調べを行い語彙を増やしたり、意味を正しく理解して使えたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容の中心を明確にし、それを基に内容のまとまりで段落をつくることができるようにする。 中心となる語や文を見つけたら傍線を引かせるようにして、話題の中心を考え、要約することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように文章で自分の考えを表現し、書いた文章を読み合い、認め合う学習を積み重ねることで、達成感を味わうことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 論の展開や筆者の主張を読み取る指導を繰り返す、文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。 主語と述語の関係や修飾関係の文の組み立てを確認する。 授業感想やお題に対して短作文を書く経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識、目的意識をもち、伝えたいこととその理由が明確になるように文章の構成を意識して、書くことを指導する。 書いた文章を友達と交流する活動を増やし、互いのよさを認め合ったり、上手な書き方を取り入れたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことができる工夫を行っていく。 書いた文章を友達と交流する活動を増やし、書き上げた達成感を味わうことができるようにする。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実際に見学に行くことができるようになったことで、児童が主体的に取り組む態度に向上が見られた。
- ・ゲストティーチャーを呼び、その方からお話を聞くことで意欲も高まり、知識の定着につながった。

(2) 課題

- ・区や都の様子といった地域学習の基礎的な内容の理解が不十分であり、他の単元のつまずきにつながっていた。
- ・学習意欲と思考の項目には向上が見られるが、既習内容を言葉や文章で表現することに苦手意識が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全体としては目標値を3.3ポイント下回った。基礎は4.4ポイント下回った。活用は0.2ポイント下回った。	/	/
第5学年	全体としては目標値を1.8ポイント下回った。基礎は5.1ポイント下回った。活用は6.2ポイント上回った。	全体としては目標値を0.1ポイント下回った。基礎は1ポイント下回り、活用は2.5ポイント上回った。	/
第6学年	全体としては目標値を4.4ポイント下回った。基礎は4.8ポイント下回った。活用は3.4ポイント下回った。	全体としては目標値を0.8ポイント上回った。基礎は0.9ポイント下回り、活用は5.4ポイント上回った。	全体としては目標値を1ポイント上回った。また、前年度より2ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より6.1ポイント下回った。「市のようすの移り変わり」の単元で、課題が見られた。	目標値より1.6ポイント上回った。「生産や販売」の単元ではよく思考し、表現できた。	目標値より0.2ポイント上回った。どの単元も目標値と同程度だった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値より5.1ポイント、6年生は7.4ポイント下回った。「くらしをささえる水」や「産業と情報のかかわり」の知識が定着していない。	5年生は、目標値より4.8ポイント、6年生は0.2ポイント上回った。「都道府県の様子」や「自然環境と国民生活」の単元が高かった。	5年生は、目標値より5.9ポイント上回り、6年生は2.9ポイント下回った。5年生どの単元も比較的高く、6年生は「情報を生かした産業」でのポイントが低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 副読本や地図帳、絵地図などの資料を活用する場をさまざまな場面で設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめ方を新聞やパンフレット、すごろくなど、多様な方法で行うようにする。また、自分の考えの根拠を明らかにさせる。 調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ校外学習や見学などの体験的活動が実施できるようにする。 タブレットに写真を送り、その写真に書き込みを入れる活動などでも学習への意欲を高めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や地図帳、資料集をさまざまな場面で活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治の学習では、模擬選挙を行うなどの体験的な学習を行う。 タブレットを活用し、他の人の意見がわかる機能を使い、話し合い活動を行うことで学びの意欲を高めていく。

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・習熟度別クラスの設定、実態に合わせた進度内容にしたことで、どの領域も基礎・基本の学力は概ね身に付いた。
- ・習熟度に応じた繰り返しの学習を十分行ったことで、「数と計算」領域については、どの学年も定着率が高かった。

(2) 課題

- ・既習事項を用いて、自分の考えを図や式を用いて説明したり、立式した理由を筋道立てて説明したりする力が全体的に弱い。見通しをもたせ、解決の道筋を自分で見つけたり、それを数学的な表現を用いて説明したりする力を身に付けていく。
- ・苦手意識から、意欲をなくす児童も多い。身の回りの事象から課題を実感できるよう、導入場面を工夫したり、量感をもって問題を解決したりできるよう指導する。
- ・全体的に図形領域の正答率が低い傾向にある。これは作図以前に、図形の構成要素に着目し、性質をとらえきれていないことが要因と考える。既習の図形を辺の長さ・角の大きさ・辺の位置関係などに着目させ、図形の性質への理解を深めていく必要がある。また同時に、分度器・コンパス・ものさし等の作図に必要な用具を適切に用いる力も身に付けさせていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全体の正答率は、目標値を2.2ポイント上回った。図形領域における正答率が2ポイント低い結果となった。		
第5学年	基礎・活用においては、全ての項目で、目標値を超えた。半面、領域別で見ると、データの活用領域、三観点で見ると、知識・技能以外は目標値を下回る結果となった。	全体の正答率は、目標値を4.8ポイント上回った。数と計算領域における正答率の伸びが鈍い傾向にある。	
第6学年	全体の正答率は、目標値を目標値より0.9ポイント上回った。領域別で見ると、図形・データの活用の目標値を下回った。また、思考・判断・表現及び記述式の正答率が低い傾向にあった。	全体の正答率は、1ポイント下回った。特に図形・データの活用領域での正答率が低い傾向にある。	全体的に目標値を上回っている。しかし、伸び率は全領域下がっている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算は概ね習得している。しかし、分数の数直線上での表し方についての理解・除法(余りあり)の文章問題での正答率が低い。分数と整数の関係、数直線の読み取りの理解に課題が見られる。	余りの処理の仕方について、理由を説明する記述式の問題の正答率が低かった。除法における、商や余りの意味や処理の仕方についての理解と説明する力に課題が見られる。	目標値、全国正答率を共に上回っている。また短答、記述式の正答率も高く、粘り強く考える姿勢が見られる。しかし、学習したことを生活に生かそうとする態度に関しては意識が薄い傾向にある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と計算領域における、分数・小数などの数のしくみの理解度が低い。平行四辺形の作図に関しては目標値より 12 ポイント低く、また図形の面積、体積、割合も 10~15 ポイント程ほど低い傾向にあった。	5年・6年ともに、データの活用領域での正答率が低い。提示されたデータから情報や傾向を読み取り、分析しながら説明する力が弱い傾向にある。	苦手意識を抱え、問題に取り組めない児童がいる。また、論理的に考え、解決に導くことが難しい。解決に用いる既習事項を引き出したり、筋道立てて考えをすすめたりして最後までたどり着くことができていない。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・加法・減法の計算では、知識・技能は身につけているが、文章問題になると、正答率が低い傾向にある。また、演算決定に課題が見られる児童も多い。そのため、場面を半具体物などで表したり、図に表したりしながら、加法や減法の意味理解が十分にできるよう指導していく。 ・既習事項を、日常の場面や他教科での学習で意図的に用いることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や方法を児童が考え説明することや、それを考えながら聴くことを通して、思考力や判断力、表現力を高めることができるようにする。 ・児童が自分の考えを振り返ったり整理したりして、筋道を立てて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教具を用いたり、問題場面を身近なものから取り上げたりすることで、興味や関心をもてるようにする。 ・学習の振り返りをし、それを教師が評価し価値付けすることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・分数と整数、小数の数の関係について、統合的にとらえられるよう、数直線を用いて数感覚を身に付けさせていく。また、実際の量感を理解できるような指導を行っていく。 ・除法の意味や商と余りのとらえ方について、具体的な場面を生活と関連付けながら理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明したり、友達と検討したりする場を多く設定し、思考力や表現力を高め、理解を深めていく。 ・児童の発言に対して問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を身近なものから設定し、実感をもって課題に取り組めるようにする。 ・コースごとの実態に合わせた課題を設定し、一人でじっくりと考える時間を確保する。 ・学習の振り返りをし、それを教師が評価し励ますことで、次時への意欲を喚起し深め

ようにしていく。	・どの既習事項を用いればよいか考え、判断することができるようにする。	る楽しさを味わうことができるようにする。
----------	------------------------------------	----------------------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項が確実に定着できるよう、反復して学習をする。特に割合の単元に関しては、経年の結果を見ても低い傾向にあるため、関連する単元の前後には復習の時間を確保する。 ・既習の図形を様々な観点から見直し、図形の構成要素や図形の特徴を確実にとらえさせる指導を行う。作図する場面を意図的に増やし、苦手意識を軽減する。 ・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習で、意図的に用いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までとの違いや新たな課題を明確にし、既習と関連させながら問題を解決できるよう見通しをもつ場を設定する。 ・どの既習事項を用いればよいかを自ら判断し、考えることができるようにする。 ・データを読み取るだけでなく、読み取ったことを分析して傾向をとらえたり、データから新たな課題を見つけたりすることに重点をおき、指導する。 ・自分の考えを説明したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりするなど、目的に応じて少人数での話し合いを効果的に取り入れる。 ・児童の発言に対して問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を身近なものから設定し、実感をもって課題に取り組めるようにする。 ・コースごとの実態に合わせた課題を設定し、一人でじっくりと考える時間を確保する。 ・学習の振り返りをし、それを教師が評価し励ますことで、次時への意欲を喚起し深める楽しさを味わうことができるようにする。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験活動に取り組むことを中心に授業を展開することで、児童の理科学習への興味や関心が高まった。

(2) 課題

- ・結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。
- ・自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。
- ・植物との関わりが不足していることから、自然事象への関心及び知識理解が乏しい。
- ・日常生活での経験と学習内容を結び付けて考えられず、知識の定着が十分でない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	平均正答率は、区・全国ともに下回った。基礎的な知識の定着に不十分な様子が見られる。	/	/
第5学年	平均正答率は、区・全国ともにおおむね上回っている。知識・技能については理解が深いことが分かる。しかし、思考・判断・表現については、まだ向上の余地が見られる。	平均正答率は、区・全国とも上回った。しかし、磁石・電気の問題のうち、目標値より10ポイント以上下回ったものがある。	/
第6学年	平均正答率は、区・全国ともに下回った。知識的なことが不十分なため、考えを表現することが難しい。そのため、理科への苦手意識が高いと考えられる。	平均正答率が目標値を大きく下回った。特定の単元ということではなく、全単元に渡り目標値よりも10ポイント近く下回っている。	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より10ポイント以上下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値から9ポイント下回っている。 ・物質エネルギーの平均正答率が目標値よりも10ポイント低く、キットを使用した実験による個別の学習体験が不十分なことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値から10ポイント下回っている。 ・3観点の中で比べるとこの観点の正答率が低くなっている。 ・実験結果や状況から類推して、何が分かるのかを問う問題に苦手意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値から11ポイント低く、当該学年の結果の中で最も低い分野である。 ・物質エネルギー領域の正答率が低く、生活体験の中から生まれる疑問が、理科的事象へと関連付けて考えることに苦手意識がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値を2ポイント上回っている。単元別に分析すると天気の様子と気温や電気のはたらきの正答率が低い。 ・6年生はすべての項目で目標値を下回っている。問題別に分析すると、植物や生命に関わる問題の正答率が低い。授業への取り組みから推測すると、実験のある分野とそうでない分野に対する理解の深さに違いがみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値にほぼ到達している。記述形式の問題が苦手な傾向が見られ、問題解決学習における「結果」「考察」をまとめることへの取り組みについて見直しが必要である。 ・6年生は目標値より7ポイント下回っている。単元別に分析すると「植物の花のつくりと実」、「ふりこのきまり」の正答率が低い。理科のものの見方・考え方、「条件制御」を用いた実験結果から考察をすることへ継続的に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値にほぼ到達している。 ・6年生は目標値より8ポイント下回っている。単元別に分析すると植物の花のつくりと実、ふりこのきまりの正答率が低い。実験など、体験的授業を展開することが難しい自然現象に関わる単元への苦手意識が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な昆虫や植物は年間を通して計画的に観察を行い、季節の変化を考え、からだのつくりへの理解を深めていく。 ・事象を実際に体験する活動を増やし、実体験から物事を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の際に、事象についての予想や仮説を発想して取り組むとともに、結果、考察を通し結論を導き出せるよう指導する。 ・3年生は差異点や共通点を基に問題を見出すこと、4年生は既習内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想することに重点をおいて指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が様々な事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むために、実験や観察活動の充実を図る。 ・観察・実験が難しい単元では映像や示範実験を通して理解を深めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を通して、知識・技能の理解を深める。活動が体験的に終わるのではなく、児童の知識となるように、問題解決の過程を意識した学習を行う。 ・理科の実験器具の使い方について、指導の中で適切な使い方が定着できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の際、事象について予想や仮説を発想し、実験に取り組むようにする。 ・実験結果から考察をする活動の際、十分な時間を確保する。問題解決の過程で用いる、5年生の「条件制御」や6年生の「多面的な考え」など「考え方」を整理し、結果を基に考察する時間を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や生活体験を手掛かりに、実験や観察を取り入れることで、児童が主体的に問題解決に取り組む意欲をもつことができるようにする。 ・児童の実態から、実験や観察が難しい単元を苦手とする傾向が見られるため、タブレット端末を使い、動画や画像を取り入れた学習指導を行う。

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生と2年生で実施した学校探検と合同遠足は、児童にとって充実した活動となり、異学年による交流活動の深まりがみられた。
- ・町探検では、サブテーマを設けたことで、児童一人一人が意識をして活動に臨めた。

(2) 課題

- ・学校探検や遠足以外にもたてわり班としての交流機会を増やしていく。
- ・学校探検での関わり方を工夫する。(2年生がただ学校を案内するだけでなく、1年生が“この教室を詳しく知りたい”と思えるような交流の工夫をしていく。)
- ・導入や展開の工夫をすることで、児童の主体性を育めるよう工夫する。

2 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や花を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・学校内や多摩川河川敷に出かけて遊ぶ場を設定し、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭探検や学校探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・経験したことや発見したこと、分かったことなど絵や文、言葉などで表現できるように、適切な助言をする。 ・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるように、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童がやりたいことを実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題を設定する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・町探検や野菜を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・身近にある物からおもちゃを考えたり、作って遊んだりする場を設定し、動くおもちゃの不思議さ、楽しさ、みんなで遊ぶ面白さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会をつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・自分たちの住む町のよさを相手や内容に合わせて、クイズや新聞、劇などで表現できるように、適切な助言をする。 ・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるように、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童のやりたいことが実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題を設定する。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も音楽活動全般に意欲的に取り組んだ。
- ・日頃の学習の成果を個人やグループ、学年単位で発表することにより、音楽を創り上げる喜びや達成感、充実感を味わわせることができた。
- ・児童の実態に合った教材の設定や様々な学習形態を取り入れることで、個人の基礎的技能や鑑賞能力の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・楽器演奏における技能の習得には、個人差がある。
- ・技能が定着していても、曲想にふさわしい音楽表現へのハードルが高く、表現することに自信がもてない児童が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組やペア学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の感じや音楽の要素に気付くことができるよう、常時活動での反復練習や ICT 機器の効果的活用、既習事項と関連付けることで知識の習得を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いをもつために、情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりできるようにする。 ・曲や演奏の楽しさ、美しさをより味わうために、身体の動きのある活動を取り入れ、感じたことを言葉で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる喜びを味わうことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組や、ペアやグループ学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の特徴や音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けや ICT 機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ること、自ら表現に生かせるようにする。 ・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感を味わうことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組や、ペアやグループ学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。・曲の雰囲気や特徴を捉え、音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けや ICT 機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・主体的に音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。・友達と協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感や充実感を味わうことができるようにする。

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年の児童も、意欲的に活動する児童が多い。
- ・様々な材料や表現方法を経験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。
- ・友達の作品のよいところを見付けたり、よさを認め合ったりする雰囲気ができてきた。

(2) 課題

- ・自分の作品のよさを認めたり、伝えたりすることが難しい児童もいる。
- ・用具を安全に配慮しながら、正しく扱う意識が低い児童もいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに気付き、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や用具の扱いに十分に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの感じが分かり、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や用具を適切に扱えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や用具を活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品や美術作品のよさや美しさを認め合える時間を設定する。

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・互いの運動を見合う場を設定したことによって、友達の動きを見て学ぶ意識が高まった。
- ・話し合う機会を設定したことによって、互いに教え合ったり励まし合ったりする児童が見られた。
- ・体育の学習に対して意欲的に取り組む児童が増えた。

(2) 課題

- ・体育に必要な多様な動きの習得が不十分なため、休み時間や体育の学習で経験させていく。
- ・勝敗を受け入れられない児童が多いため、下学年から勝敗を受け入れる素地を作っていく。
- ・自己の課題を解決する方法を見つけられない児童が多いため、体育の学習で課題解決の仕方を学ぶことができるようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動では、運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりできるようにする。 <p>⇒文科省から出ている「36の基本の動き」を指導者が意識して運動遊びの場に取り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方の工夫を考えられるようにする。 <p>⇒運動遊びの場や用具を複数設定したり、工夫する視点を提示したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや気付いたことを友達に伝えることができるようにする。 <p>⇒言葉や動作で伝える機会を設けたり、伝え方を例示したりする。</p> </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びにすすんで取り組むことができるようにする。 <p>⇒成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり、できたことを称賛したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことを好まない児童も運動に取り組めるようにする。 <p>⇒友達と関わりながら自然に運動遊びに加わっていくことができるように配慮する。</p> </p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム領域では、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。 <p>⇒プレイヤーの人数の調整（アウトナンバー）</p> <p>⇒コート広さ</p> <p>⇒ネットの高さ</p> <p>⇒塁間の距離</p> <p>⇒プレイ上の緩和や制限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記のことを工夫して、こどもたちが運動の特性や楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則を工夫したり、ゲームの方に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 <p>⇒クラスルールの設定（合意形成）</p> <p>⇒チームで話し合う時間を設け、チームの特徴に沿った作戦を選ぶ。</p> <p>⇒全体で課題達成のために友達から伝えてもらったことやチームで取り組んだことなどを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動にすすんで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動ができるように支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしながら運動に取り組めるように支援する。 <p>⇒上記のことを意識して運動できている子を価値付けしていく。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・器械運動では、基本的な技を安定して行ったり、その発展技や更なる発展技に取り組んだりして、中学校の器械運動の学習につなげていくことができるようにする。</p> <p>⇒場の設定への工夫 ⇒スモールステップ学習の導入 ⇒ICT 機器の活用（サイト） ⇒教え合い・見合いの場を設ける</p> <p>・上記のことを工夫して、子どもたちが運動の特性や楽しさを味わえるようにする。</p>	<p>・自己やグループの課題を見つけ、その解決のための活動を工夫することができるようにする。</p> <p>⇒学習カードの工夫 ⇒ICT 機器の活用（技の撮影） ⇒全体で課題達成のために、友達から伝えてもらったことやグループで取り組んだことなどを共有する。</p>	<p>・約束を守り、助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたりできるようにする。</p> <p>・場や器械、器具の安全に気を配ることなどをできるようにする。</p> <p>⇒上記のことを意識して運動できている子を価値付けしていく。</p>

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技能習得に個人差があることを踏まえ、個別指導の時間を設けたところ、主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、たまサポ（地域支援本部）ボランティアの保護者と連携して取り組むことで、個別の対応ができるようになった。
- ・学んだことを実生活に生かす課題に取り組み、振り返りの時間を設定することで、家庭での仕事に目を向け実践することができるようになってきている。
- ・ICT機器を効果的に使用することで、手縫いやミシン縫いにおける技能を視覚的に捉えることができ、技能の習得につながった。

(2) 課題

- ・家庭内で親子の関わりが少なく、家庭生活に興味や関心をもつことが難しい児童が多く、家庭での実践ができない児童が数名いる。
- ・学習内容を、日常生活の場に生かすことができる児童とできない児童の差がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・既習事項を関連付けて考えたり、それを繰り返し活用したりしながら、知識や技能の確実な定着を図る。・基本的な裁縫の技能や金融に関わることは、ICTを活用し、視覚的に理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・自分の活動を振り返り、家庭と関わる経験の大切さを知り、自分の考え方を分かりやすく伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ICTを活用し、学習への興味関心を高めるとともに、家庭科で学んだことを主体的に実生活に生かせるよう、自ら課題を見だし、解決を図る活動や実践を振り返る活動が充実したものになるようにする。

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・正しい発音にこだわってしまったり、リアクションの仕方に恥ずかしさもあつたりして、積極的になれない児童が一定数いたが、抵抗感が薄まって英語での表現が分からなくても、自分から伝えようとする気持ちが少しずつ高まってきた。
- ・昨年度、授業後の振り返りがなかなか書けない児童がいたが、授業のゴールを明確に示すことで、ゴールに対する振り返りを意識して、取り組むようになってきた。

(2) 課題

- ・反復練習する時間が十分に取れず、身に付けたい表現（キーセンテンス）が定着していない。
- ・覚えている単語の量が少なく、自分の思いをなかなか伝えられない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常よく使う単語の問題は目標値を6.6ポイント上回った。 ・知識・技能に関しては、平均値であった。 ・例文を参考にしながら、あこがれの人について簡単な語句や基本的な表現を用いて書く問題の正答率が目標値よりも20ポイント低かった。 	/	/

(2) 分析（観点別）

① 低学年（外国語活動）

授業での様子
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら相手に関わり、楽しんで発音したり話したりして取り組める児童が多い。 ・多くの児童が挨拶や感謝など、簡単な語句や基本的な表現を使って、話そうとしている。

② 中学年（外国語活動）

聞くこと	話すこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話したりジェスチャーをつけたりすると、身近で簡単な事柄に関する基本的な意味の表現が分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と簡単な挨拶を交わす活動、好きなものや欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動など、主体的に相手と関わろうとする児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で、よく発音したり書いたりするものは身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人を紹介する文章を作る問題では、語順を意識しながら書くことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの要素の強い活動に意欲的に取り組む。 ・発音したり話したりする活動を繰り返すことで、できるようになったという自信をもっている児童が少しずつ増えている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年（外国語活動）

<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、話しながら体を動かす活動を取り入れ、話す楽しさ、コミュニケーションがとれる楽しさを大切にした授業づくりをする。 ・同じ単語や表現を、繰り返し発音したり話したりする経験を積み、外国語で話せた実感を味わうことができるようにする。

(2) 中学年（外国語活動）

聞くこと	話すこと
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面設定し、ゆっくりはっきり話したりジェスチャーをつけたりして、おおよその内容が推測できるようにする。加えて、慣れ親しんだ別の語句や表現に言い換えたり、動作やイラスト、写真を添えたりするなどして、「聞いて分かった」という喜びや達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を使って、自ら友達と関わる児童が多いので、さらに自信をもって楽しんで取り組めるように、ゲームや遊びの要素を入れたり、交流する時間を多く取ったりして、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四線を使った、アルファベットを正しく書く指導を継続し、繰り返し外国語を書く経験を積めるようにする。 ・肯定、否定の平叙文や命令文などについて、日本語と英語の語順の違いに気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れる。 ・語順を意識して伝えられるように、例文を繰り返し発音したり、チャンツで発話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方、伝え方を指導し、場面に応じて適切に使い分けられるようにする。 ・教師が既習事項を使った文を話すことで英語を話したいという意欲を育てる。 ・身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話したり書いたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして新しい内容の学習ができるようにする。 ・楽しめる活動内容を検討し、学習に対する意欲が持続できるようにする。 ・友達に伝えたり、自分で練習したりする時間を取り、繰り返し発音したり話したりしてできたと感じられる経験を重ね、自信をもって活動できるようにする。